



医療機関名	てすと
検査ID番号	GW00000017
患者名	様
生年月日	年 月 日
性別	男性 女性

作成日：2015年11月4日

検査機関：ジェネシス遺伝学研究所

お問い合わせ先電話番号：0438 - 38 - 6416

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素	
アルコール	ALDH2 12	671	*1*1	*1*2	*2*2	-	ALDH2遺伝子は、アルコール代謝の中間産物である毒性を持つアセトアルデヒドを分解し、無毒化する機能があります。この遺伝子が*1*2、*2*2型の方は酵素活性が弱く、アセトアルデヒドが蓄積しやすくなるためアルコールを摂取すると気分が悪くなります（*1*1の場合、飲み過ぎによるアルコール依存に注意が必要です）。またこの遺伝子が*1*2、*2*2型の方はアルコールを含む化粧品等による肌荒れが起こりやすいと考えられます。	タウリン ナイアシン セサミン・セサミノール カフェイン オオアザミ（ミルクシスル）	
			58%	35%	7%				
			-	-	-				
鼻炎・アレルギー・喘息	IL12RB1 19	393548	TT	AT	AA	2.25	IL12RB1遺伝子は免疫反応においてアレルギー反応を抑制する機能があります。この遺伝子がAA型の方はIL12RB1遺伝子の発現が低下し、免疫反応のバランスが崩れ、アレルギー反応を起こすリスクが高くなると報告されています。	ビタミンC ビタミンE タンパク質 ビタミンA ビタミンB2 ビタミンB6 EPA DHA	
			61%	33%	6%				
			1.00	0.92	2.39				
	GSDMB 17	7216389	CC	CT	TT		GSDMB遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がCT型、TT型の方はGSDMB遺伝子の発現が上昇し、喘息の発症リスクが高くなると報告されています。	-リノレン酸 -リノレン酸 -グルカン	
				7%	38%				55%
				1.00	1.44				2.07
	CHI3L1 1	4950928	GG	CG	CC		CHI3L1遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がCG型、CC型ではCHI3L1遺伝子の発現が増加するため、喘息の発症リスクが高くなると報告されています。		
				2%	30%				68%
				1.00	1.18				2.14
	IL13 5	20541	GG	AG	AA		IL13遺伝子は、サイトカインとしてIgE抗体産生を促す機能があります。この遺伝子がAG型、AA型の方は、IL13の働きが強くなり、IgE抗体が産生されやすくなるため、アレルギー反応を起こすリスクが高くなると報告されています。		
				51%	38%				11%
				1.00	1.73				2.40
加齢黄斑変性	ARMS2 10	10490924	CC	CA	AA	10.84	ARMS2遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がCA型、AA型の方は加齢黄斑変性の発症リスクが高くなると報告されています。	アントシアニン ルテイン ビタミンA ビタミンC ビタミンB1 ビタミンB2 アスタキサンチン イチョウ葉エキス	
			35%	40%	25%				
			1.00	1.69	12.28				
	CFH 1	800292	AA	AG	GG		CFH遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がAG型、GG型の方は加齢黄斑変性の発症リスクが高くなると報告されています。		
				13%	49%				38%
				1.00	6.00				9.40
リウマチ	HLA 6	6457617	CC	CT	TT	3.49	HLA遺伝子は免疫機能の中心的な働きをする機能があります。この遺伝子がCT型、TT型の方は免疫疾患であるリウマチの発症リスクが高くなると報告されています。	EPA -リノレン酸 ビタミンC クルクミン コラーゲン ビタミンE オレイン酸 ビタミンB6	
			21%	49%	30%				
			1.00	2.36	5.31				

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素
リウマチ	PADI4 1	11203366	AA	AG	GG	3.49	PADI4遺伝子はリウマチの原因のひとつとなるシトルリン化タンパク質をつくる機能があります。この遺伝子がAG型、GG型の方はシトルリン化タンパク質が蓄積しやすく、リウマチの発症リスクが高くなると報告されています。	EPA -リノレン酸 ビタミンC クルクミン コラーゲン ビタミンE オレイン酸 ビタミンB6
			35%	44%	21%			
			1.00	1.29	1.66			
変形性関節炎、骨関節炎	DVWA 3	7639618	AA	GA	GG	2.15	DVWA遺伝子は細胞骨格の1種であるベータチューブリンと結合して関節部を保護する機能があります。この遺伝子がGA型、GG型の方はベータチューブリンとの結合が弱まり、関節炎の発症リスクが高くなると報告されています。	EPA グルコサミン ヒアルロン酸 コラーゲン コンドロイチン硫酸 セイヨウシロヤナギ ローズヒップ
			18%	45%	37%			
			1.00	1.43	2.04			
	PTGS2 and PLA2G4A 1	4140564	AA	AG	GG	2.15	PTGS2 and PLA2G4A遺伝子は細胞の増殖や分化に関わるホルモンの代謝を制御する機能があります。この遺伝子がAG型、GG型の方は関節炎の発症リスクが高くなると報告されています。これまでのデータでは日本人でAA型以外の遺伝子型は現れていませんが、今後の研究の拡大により現れる可能性があります。	
			100%	0%	0%			
			1.00	1.50	2.25			
腰痛	CILP 15	2073711	TT	TC	CC	2.59	CILP遺伝子は軟骨組織での遺伝子群の発現を抑制する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は、腰痛の発症リスクが高くなると報告されています。	セイヨウシロヤナギ
			64%	31%	5%			
			1.00	1.61	2.59			
痛風	SLC2A9(rs1014290) 4	1014290	GG	AG	AA	1.77	SLC2A9遺伝子は尿酸を輸送・排出する機能があります。この遺伝子がAA型 (rs1014290)、TT型(rs6449213)、GG型 (rs737267)の方は、尿酸の排出に異常をきたしやすくなり、痛風のリスクが高くなると報告されています。	カリウム 乳製品 大豆たんぱく質 水分：1日2リットル
			11%	52%	37%			
			1.00	1.00	1.40			
	SLC2A9(rs6449213) 4	6449213	CC	CT	TT	1.77	SLC2A9遺伝子は尿酸を輸送・排出する機能があります。この遺伝子がAA型 (rs1014290)、TT型(rs6449213)、GG型 (rs737267)の方は、尿酸の排出に異常をきたしやすくなり、痛風のリスクが高くなると報告されています。	
			0%	2%	98%			
			1.00	1.00	1.32			
	SLC2A9(rs737267) 4	737267	TT	GT	GG	1.77	SLC2A9遺伝子は尿酸を輸送・排出する機能があります。この遺伝子がAA型 (rs1014290)、TT型(rs6449213)、GG型 (rs737267)の方は、尿酸の排出に異常をきたしやすくなり、痛風のリスクが高くなると報告されています。	
			0%	2%	98%			
			1.00	1.00	1.34			
	ABCG2 4	2231142	GG	TG	TT	1.77	ABCG2遺伝子は腎臓近位尿管細胞で発現し、プリン環核酸類似体の輸送を行う機能があります。この遺伝子がTG型、TT型の方は痛風の発症リスクが高くなると報告されています。	
			40%	52%	8%			
			1.00	1.74	3.03			

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素			
群発頭痛	HCRTR2 6	2653349	AA	AG	GG	1.75	HCRTR2遺伝子は神経ペプチドのオレキシンの受容体としての機能があります。この遺伝子がGG型の方は群発頭痛の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の群発頭痛発症における役割は現在研究中です。	フィーバーピュー セイヨウカノコソウ			
			0%	8%	92%						
			1.00	1.00	1.75						
2型糖尿病	SORBS1 10	2281939	GG	GA	AA	1.74	SORBS1遺伝子はインスリンシグナル伝達を行う機能があります。この遺伝子がGA型、AA型の方はシグナル伝達が弱まることで、インスリンの働きが低下し、糖尿病のリスクが高くなると報告されています。	低インスリン食品(GI食品) 食物繊維 EPA タウリン -リノレン酸 オレイン酸 カテキン ビタミンQ クロム ギムネマ酸 グァバ葉ポリフェノール サラシア 朝鮮人参エキス オオバコ オオアザミ カイアボイモ			
			5%	16%	79%						
			1.00	1.50	2.25						
	LMNA 1	4641	CC	TC	TT	1.00	LMNA遺伝子はインスリンシグナル伝達や脂肪の代謝、白色脂肪細胞の分化などの機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方はこれらの機能が低下することで、糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。				
									62%	36%	2%
									1.00	1.21	1.46
	TCF7L2 10	7903146	CC	CT	TT	1.00	TCF7L2遺伝子は膵細胞の分化・増殖・インスリン分泌を調節する機能があります。この遺伝子がCT型、TT型の方はインスリン分泌の調節がうまくいかず、糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。				
									91%	9%	0%
									1.00	1.69	2.86
	PPARG 3	1801282	GG	CG	CC	1.00	PPARG遺伝子は脂肪細胞の肥大化を促進する機能があります。この遺伝子がCC型の方はPPARG遺伝子の発現量が高く、脂肪細胞の肥大化が起こりやすくなるため、肥満・糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。				
									1%	5%	94%
									1.00	1.00	2.42
IGF2BP2 3	4402960	GG	GT	TT	1.00	IGF2BP2遺伝子はインスリンの作用を調節する機能があります。この遺伝子がGT型、TT型の方はインスリンの作用が低下して糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。					
							49%	42%	9%		
							1.00	1.37	1.88		
HHEX 10	1111875	TT	TC	CC	1.00	HHEX遺伝子は血液細胞の発生を調節する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の糖尿病発症における役割は現在研究中です。					
							51%	41%	8%		
							1.00	1.24	1.54		
CDKAL1 6	7756992	AA	AG	GG	1.00	CDKAL1遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がAG型、GG型の方は糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。					
							28%	49%	23%		
							1.00	1.16	1.35		

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素
2型糖尿病	SLC30A8 8	13266634	TT	CT	CC	1.74	<p>SLC30A8遺伝子は膵臓で亜鉛を細胞内に取り込み、インスリンの成熟や保存を促す機能があります。この遺伝子がCT型、CC型の方はインスリンレベルを高く維持できず、糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。</p> <p>WFS1遺伝子は細胞内のカルシウムイオン濃度を一定に保つ機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の糖尿病発症における役割は現在研究中です。</p> <p>CDKN2A/B遺伝子は細胞周期の進行を遅らせる機能があります。この遺伝子がCT型、TT型の方は糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の糖尿病発症における役割は現在研究中です。</p> <p>KCNQ1遺伝子は細胞内のカリウム濃度を調節する機能があります。この遺伝子がCC型の方は糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の糖尿病発症における役割は現在研究中です。</p> <p>UCP2遺伝子は水素イオンの流入・流出によりエネルギーを熱の形で消費する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は2型糖尿病の発症リスクが高くなると報告されています。</p>	<p>低インスリン食品(GI食品) 食物繊維 EPA タウリン -リノレン酸 オレイン酸 カテキン ビタミンQ クロム ギムネマ酸 グァバ葉ポリフェノール サラシア 朝鮮人参エキス オオバコ オオアザミ カイアボイモ</p>
			17%	47%	36%			
			1.00	1.22	1.49			
	WFS1 4	10012946	TT	TC	CC	1.00		
			0%	5%	95%			
			1.00	1.15	1.32			
	CDKN2A/ B 9	10811661	CC	CT	TT	1.00		
			19%	50%	31%			
			1.00	1.25	1.56			
	KCNQ1 11	2237892	TT	TC	CC	1.00		
			13%	47%	40%			
			1.00	1.00	1.23			
UCP2 11	660339	TT	TC	CC	1.00			
		18%	55%	27%				
		1.00	1.23	1.51				
脳梗塞	NINJ2 12	12425791	GG	AG	AA	1.54	<p>NINJ2遺伝子は細胞と細胞を接着させる分子として、損傷した神経の修復を促す機能があります。この遺伝子がAG型、AA型の方はNINJ2遺伝子の発現が影響を受け、脳梗塞の発症リスクが高くなると報告されています。</p> <p>CYBA遺伝子は白血球の表面で活性酸素を産生し、生体を防御する機能があります。しかし過剰な活性酸素は虚血性脳血管疾患(脳梗塞など)の発症に関与していると考えられています。この遺伝子がTC型、TT型の方は脳梗塞の発症リスクが高くなると報告されています。</p>	<p>カリウム 食物繊維 CPP(カゼインホスホペプチド) オレイン酸 フラボノイド EPA DHA セサミン・セサミノール タウリン ポリフェノール 大豆サボニン</p>
			45%	46%	9%			
			1.00	1.26	1.26			
	CYBA 16	4673	CC	TC	TT	1.00		
			87%	12%	1%			
			1.00	1.81	1.81			
胆石	ADRB3 8	4994	TT	TC	CC	-	<p>ADRB3遺伝子は胆嚢収縮を調節する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は胆嚢収縮が影響を受け、胆石の発症リスクが高くなると報告されています。</p>	<p>食物繊維 タウリン ビタミンC ビタミンE</p>
			60%	34%	6%			
			-	-	-			

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素			
心筋梗塞	CDKN2B-AS 9	2383207	AA	AG	GG	1.64	CDKN2B-AS遺伝子は細胞周期を調節する機能があります。AG型、GG型では心筋梗塞の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の心筋梗塞発症における役割は現在研究中です。	カリウム 食物繊維 ビタミンC -カロチン ビタミンE			
			11%	29%	60%						
			1.00	1.26	1.64						
原発性胆汁性肝硬変	TNPO3 7	10488631	TT	CT	CC	2.42	TNPO3遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がCT型、CC型の方は原発性胆汁性肝硬変の発症リスクが高くなると報告されています。これまでのデータでは日本人でTT型以外の遺伝子型は現れていませんが、今後の研究の拡大により現れる可能性があります。	食物繊維 タンパク質 ビフィズス菌 レシチン(ホスファルチジルコリン) グルタチオン オオアザミ			
			100%	0%	0%						
			1.00	1.60	2.56						
	1	IL12RB2 3790567	GG	AG	AA	2.42	IL12RB2遺伝子は免疫反応を調節する機能があります。AG型、AA型の方は免疫のバランスが崩れ、原発性胆汁性肝硬変の発症リスクが高くなると報告されています。				
									52%	43%	5%
									1.00	1.51	2.28
円形脱毛症	CTLA4 2	1024161	CC	TC	TT	2.87	CTLA4遺伝子は免疫の主要因子として免疫反応を抑制する機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方は免疫力が低下することにより、円形脱毛症の発症リスクが高くなると報告されています。	パントテン酸 ビタミンE ビタミンC ビオチン			
			11%	49%	40%						
			1.00	1.40	1.96						
	6	ULBP6 9479482	CC	TC	TT	2.87	ULBP6遺伝子は複数のシグナル伝達を活性化し、サイトカインおよびケモカインを産生する機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方は円形脱毛症の発症リスクが高くなると報告されています。				
									7%	41%	52%
									1.00	1.65	2.72
	6	HLA-DQA2 9275572	AA	AG	GG	2.87	HLA-DQA2遺伝子はヒト白血球抗原を産生する領域のひとつとして免疫反応を行う機能があります。この遺伝子がAG型、GG型の方は免疫力が低下することにより、円形脱毛症の発症リスクが高くなると報告されています。				
									11%	47%	42%
									1.00	2.20	4.84
	10	IL2RA 3118470	TT	TC	CC	2.87	IL2RA遺伝子はサイトカインの一つであるIL2の受容体として液性免疫反応を調節する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は免疫力が低下することにより、円形脱毛症の発症リスクが高くなると報告されています。				
									30%	51%	19%
									1.00	1.40	1.96
片頭痛	PRDM16 1	2651899	TT	TC	CC	1.27	PRDM16遺伝子はDNAと結合して転写を調節する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は片頭痛の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の片頭痛発症における役割は現在研究中です。	フィーバービュー ビタミンB2 ビタミンQ ショウガ マグネシウム トリプトファン			
			36%	50%	14%						
			1.00	1.10	1.21						

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素		
片頭痛	TRPM8 2	10166942	CC	TC	TT	1.27	TRPM8遺伝子は温度感受性イオンチャネルの一つで、28度以下の冷刺激あるいはメントール（ミントの成分）によって活性化され、イオンの取り込み・排出を行う機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方は片頭痛の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の片頭痛発症における役割は現在研究中です。	フィーバーピュー ビタミンB2 ビタミンQ ショウガ マグネシウム トリプトファン		
			31%	43%	26%					
			1.00	1.18	1.38					
	LRP1 12	11172113	CC	TC	TT	1.30			LRP1遺伝子は神経のグルタミン酸シグナル伝達を調節する機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方は片頭痛の発症リスクが高くなると報告されています。この遺伝子の片頭痛発症における役割は現在研究中です。	
			3%	34%	63%					
			1.00	1.10	1.21					
尿路結石	UMOD 16	4293393	TT	TC	CC	1.30	UMOD遺伝子は尿路結石の原因となるカルシウムの結晶化を防ぐ機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は尿路結石症の発症リスクが高くなると報告されています。	水分：1日2リットル カルシウム クエン酸		
			91%	9%	0%					
			1.00	1.14	1.30					
LDL-コレステロール	ABCG8 2	4299376	TT	TG	GG	-			ABCG8遺伝子は食事性コレステロールの選択的な輸送を行う機能があります。この遺伝子がTG型、GG型の方はLDLコレステロール（悪玉コレステロール）の血中濃度が高くなると報告されています。これまでのデータでは日本人でTT型以外の遺伝子型は現れていませんが、今後の研究の拡大により現れる可能性があります。	食物繊維 EPA DHA オレイン酸 -カロチン ビタミンE グリシニン スコルジニン アホエン カテキン キチン キトサン レシチン(ホスファルチジルコリン) オリゴ糖 クロロフィル(葉緑素) エリタデニン
			100%	0%	0%					
			-	-	-					
	LDLR 19	6511720	TT	TG	GG	-	LDLR遺伝子は血液中のLDLコレステロール（悪玉コレステロール）と結合して細胞内に取り込む機能があります。この遺伝子がTG型、GG型の方はLDLコレステロール（悪玉コレステロール）の血中濃度が高くなると報告されています。			
			0%	2%	98%					
			-	-	-					
	SORT1 1	646776	CC	TC	TT	-		SORT1 遺伝子は細胞内でタンパク質を輸送する機能があります。この遺伝子がTC型、TT型の方はLDLコレステロール（悪玉コレステロール）の血中濃度が高くなると報告されています。この遺伝子のLDLコレステロール（悪玉コレステロール）の血中濃度における役割は現在研究中です。		
			1%	11%	88%					
			-	-	-					
疲労	NQO1 16	1800566	CC	CT	TT	-	NQO1遺伝子はコピキノン（CoQ10）などの安定化や抗酸化・抗ストレスの機能があります。この遺伝子がCT型、TT型の方は還元力が弱まる傾向があり、環境やストレスの影響により疲れやすくなると考えられます。		ビタミンQ ビタミンC ビタミンA ビタミンE ビタミンB1	
			32%	57%	11%					
			-	-	-					
炎症	mEPHX1 1	1051740	TT	TC	CC	-		mEPHX1遺伝子は外来性の異物を体外に排出する形に変換する機能があります。この遺伝子がTC型、CC型の方は酵素活性が低下し、外来性の異物を原因とする炎症を起こしやすくなる傾向があると考えられます。		ビタミンC ビタミンA ビタミンE ポリフェノール フラボノイド
			34%	46%	20%					
			-	-	-					

項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素
			AA	AG	GG			
解毒	GPX1 3	3811699	AA	AG	GG	-	GPX1遺伝子は活性酸素である過酸化水素を還元し無毒化する機能があります。この遺伝子がAG型、G型の方は酵素活性が低下し、過酸化水素が蓄積しやすくなる傾向があると考えられます。	タウリン セレン グルタチオン ビタミンB2 ビタミンE
			80%	20%	0%			
			-	-	-			
免疫	TNF- 6	1800629	GG	AG	AA	-	TNF- 遺伝子は免疫作用を促進させる機能があります。この遺伝子がAG型、AA型の方はTNF- 遺伝子の発現が上昇し、アレルギー反応を起こすリスクが高くなると報告されています。	ビタミンE ビタミンC カロテノイド フラボノイド リグナン類
			97%	3%	0%			
			-	-	-			
危機回避	DRD2(AN KK1) 11	1800497	GG	AG	AA	-	DRD2遺伝子は神経伝達物質であるドーパミンの受容体としての機能があります。この遺伝子がAG型、AA型の方は、この受容体の密度が低下することで神経伝達が効率が低下し、ネガティブな結果からの学習が非効率的となる傾向があると報告されています。	-
			34%	48%	18%			
			-	-	-			
記憶力	KIBRA(W WC1) 5	17070145	TT	TC	CC	-	KIBRA遺伝子の機能は現在研究中ですが、この遺伝子がTT型、TC型の方は記憶能力が高くなる傾向があると報告されています。	ブドウ糖 タンパク質 EPA DHA ビタミンE
			65%	33%	2%			
			-	-	-			
乳糖不耐性	LCT,MCM 6 2	4988235	AA	AG	GG	-	LCT遺伝子は乳糖を加水分解する機能があります。この遺伝子がGG型の方は発現量が低下し、乳糖の代謝が不十分となり、消化できなくなると報告されています。これまでのデータでは日本人でGG型以外の遺伝子型は現れていませんが、今後の研究の拡大により現れる可能性があります。	カルシウム ビタミンD ビタミンK マグネシウム タンパク質
			0%	0%	100%			
			-	-	-			
甘み摂取傾向	ADRA2A 10	1800544	CC	GC	GG	-	ADRA2A遺伝子はアドレナリンを受け取り、血糖値を上昇させる機能があります。この遺伝子がGC型、GG型の方は血糖値が上がりにくくなるため、甘い食べ物の消費が多くなる傾向があると報告されています。	天然甘味成分
			8%	39%	53%			
			-	-	-			
カフェイン過敏症	ADORA2A 22	5751876	CC	CT	TT	-	ADORA2A遺伝子は神経伝達物質であるアデノシンを受け取り、ドーパミンを抑制してリラックス・睡眠作用をもたらす機能があります。カフェインはアデノシンの類似物質として正常な作用を阻害する覚醒作用があります。この遺伝子がCT型、TT型の方はアデノシンよりカフェインと結合しやすく(感受性が高く)なる傾向があると報告されています。	ノンカフェイン飲料
			31%	52%	17%			
			-	-	-			
カフェイン代謝	CYP1A2 15	762551	AA	AC	CC	-	CYP1A2遺伝子はカフェインの代謝を促進する機能があります。この遺伝子がAC型、CC型の方は酵素活性が低下し、カフェインの代謝が遅くなる傾向があると報告されています。	ノンカフェイン飲料
			35%	51%	14%			
			-	-	-			



項目名	遺伝子名 / 染色体番号	SNP	遺伝子型 / 人口頻度 / 発症リスク			DNAからみる発症リスク	解説	おすすめの栄養素
苦み感知度	TAS2R38 7	713598	GG	CG	CC	-	TAS2R38遺伝子は苦味成分受容体として、食品などに含まれるに苦味成分と結合することで苦味を感知する機能があります。この遺伝子がCG型、CC型の方は苦味を感じやすい傾向があると報告されています。	亜鉛
			23%	48%	29%			
			-	-	-			